

令和元年度図書館事業評価

図書館計画に基づき、事業評価を、次の評価指標により評価を実施した。

評価指標

A：事業計画の目標に対し概ね達成している

B：事業計画の目標に対し一部達成している

C：事業計画の目標に対し課題がある

評価結果一覧

評 価 項 目	一次評価 (図書館)	二次評価 (図書館 協議会)
基本方針 1 資料の収集と保存の充実	A	A
基本方針 2 すべての市民に活用されるために	A	A
基本方針 3 西東京市の文化・歴史を次世代に継承する	A	A
基本方針 4 未来を担う子どもの読書活動の支援	B	B
基本方針 5 地域、行政と連携した図書館サービスの向上	A	A
基本方針 6 効率的・効果的な運営体制の構築	A	A

基本方針 1 資料の収集と保存の充実					
令和元年度目標					
①大活字本の利用状況を館ごとに調査し、蔵書構成の充実に生かします。 ②音訳資料等の保存のため、谷戸図書館書庫の資料を整備します。 ③マルチメディアデイジー図書を積極的に収集し、利用促進を図ります。					
令和元年度取組成果					
① 最近の大活字本の利用状況を確認・比較した結果、貸出回数は館の所蔵資料数にある程度比例することや、中央・柳沢は他館と比較するとかなり予約件数が多く、ニーズが高いことがわかりました。 ・2015年～2019年度までの各館の大活字本の年間貸出数平均					
中央	保谷駅前	芝久保	谷戸	柳沢	ひばりが丘
1324回	1013回	619回	2586回	1160回	749回
・2020年3月末時点での各館所蔵数（上段：開架 下段：閉架）					
中央	保谷駅前	芝久保	谷戸	柳沢	ひばりが丘
445冊	464冊	387冊	1401冊 1916冊	525冊	483冊
・2015年～2019年度までの各館の大活字本の年間予約提供数平均					
中央	保谷駅前	芝久保	谷戸	柳沢	ひばりが丘
222回	106回	76回	76回	214回	116回
所蔵状況の把握、利用者へのPRのため、目録を作成しホームページに掲載しました。 現在所蔵の大活字本の中で状態が悪いものの調査をし、流通のある資料については買い替えを行いました。 ・買い替え数（95冊）					
② 対面朗読資料原本や大活字本を整理し音訳資料等のスペースを確保しました。 ・対面朗読資料原本：5年以上前の資料は除籍し、市民配布 ・大活字本：複本のある資料の一部を除籍し、市内高齢者施設等へ団体配布 音訳資料保存のための整理として、緊急雇用時に作成した保存用のCD版を整理しカセットテープ版を処分することにより、書庫の保存資料の整備を行いました。					
③ 新しくマルチメディアデイジー図書の購入を行ったほか、寄贈されたわいわい文庫も装備し、今後の学校へのマルチメディアデイジー導入に向けての準備を行いました。 ・購入数（12タイトル）					

・寄贈受け入れ数（４タイトル） 利用促進のためのマルチメディアデイジーリストを作成しました。 マルチメディアデイジー図書の目録を作成し、図書館ホームページに掲載、また、デイジー図書目録とともに音声版も作成しました。	
基本方針１の総合自己評価・今後の課題改善点	
① 所蔵資料の利用数や各館のニーズなど、今後の大活字本の購入・所蔵計画を立てる上で有効な情報を得られました。また、貸出回数の多い資料や児童向け大活字本の利用状況など、今後調査すべき内容の洗い出しができたため、次年度はこれらの調査を行います。今回の調査で中央・柳沢に特にニーズがあることがわかりましたが、スペースの問題から蔵書を増やすことは難しいため、館内で閲覧可能な大活字所蔵目録を作成し、より大活字本の情報が得られる環境を整えます。 ② 今回の整理により、現状のハンディキャップサービス資料の保管場所内での一定のスペースが確保できました。今後は、音訳資料作成を進めていく中で、他の担当と協議し、谷戸図書館書庫全体の資料配置の見直しを行います。 ③ 資料の収集やリストの作成、ホームページへの掲載など、段階を踏んで利用促進のための環境を整えました。令和２年度は、ハンディキャップサービスの機器の入れ替えとともに、マルチメディアデイジーを利用するための機器の整備を行います。	A
図書館協議会委員による二次評価	
① 高齢者の方や弱視の方にとって大活字本の充実は重要です。今後も充実されることを期待しています。また、児童向け大活字本の存在を広報するとよいと思います。しかし、大活字本の利用状況調査については、調査方法等の改善を行い、より踏み込んだ調査を行う必要があるでしょう。 ② ハンディキャップサービスを充実するためには関連資料の充実が求められています。そのための保管場所を一定程度確保できたことを評価します。 ③ マルチメディアデイジーは図書館利用に障害のある人たちにとって有効な読書媒体になると思います。今後の充実を期待しています。 ＜全体的に＞ ハンディキャップサービスの資料は購入したら終わりではなく、利用状況の確認や音訳資料の作成、資料を利用する際に使う機器の整備など様々な準備を経て利用者に届きます。時間のかかる作業にも根気強く取り組んでいる姿が伝わりました。 多様な人たちへのサービスはその人たちから求められていることを正確に把握することが大切です。今後も幅広く意見を聞きながら、多様な資料収集が行われていくことを期待します。	A

基本方針 2 すべての市民に活用されるために
令和元年度目標
① 多文化理解のためのサービスとして、市や地域で作成している外国語資料や情報発信について、現状調査を行います。 ② 多文化理解のためのおはなし会を継続実施します。 ③ 利用しやすい環境づくりのため、各館内の表示・サインの調査と検討を行います。 ④ 地域性を考慮した最新情報を提供するため、ビジネス支援コーナーの書架構成を再検討します。 ⑤ 資料やインターネット情報の活用を促進するため、レファレンス講座や講習会を実施し、利用者の調査・研究を支援します。 ⑥ 国立国会図書館レファレンス協同データベースを活用し、レファレンス記録情報を公開します。
令和元年度取組成果
① 市内で活動されている日本語ボランティア 12 教室へ活動内容及び図書館へ望むこと等のアンケート協力を依頼し、10 教室から回答を得ました。図書館に期待する主な回答は以下のとおりでした。 ・外国の方のための日本語学習の本のコーナー ・学習者がレベルにあわせて読める本をそろえてほしい。(子どもの本ではないもの) ・第二言語としての日本語の教授法についての専門書 ・外国人が図書館を利用しやすくなる活動をしてほしい ・多言語でのおはなし会や読み聞かせ会 また、他自治体の事例（東久留米市立、新宿区立大久保図書館、板橋区ボローニャ絵本館）を視察し、多文化理解のサービスを発信する手がかりを得ました。 ② (1) 多言語おはなし会「いろいろなことばでたのしむおはなし会」 英語、中国語、韓国語を母語とする人による読み聞かせ 1 回目：31 人参加 満足度 82% 2 回目：17 人参加 満足度 100% 3 回目：中止 (2) 日本語多読ワークショップ「いっしょに読もうやさしいにほんご」 講師：NPO 多言語多読 参加者：6 人（中国、韓国、ベトナム出身）満足度 100% (3) 多文化理解のための企画展示 柳沢図書館にて「おなじ絵本 de よみくらべ～中国語・韓国語・日本語で絵本を見てみよう！

～」を企画し、言語の違う同じ絵本の蔵書を展示しました。利用者にアンケートし、この展示に「よかった」「ふつう」シールをボードに貼ってもらい関心度を調査しました。(回答 21 人)

③ 利用しやすい環境づくりのため、ハード・ソフト両面で取り組みました。

【ハード】全館の表示・サインを点検した結果、以下 2 点の改善を行いました。

(1) ひばりが丘図書館の玄関の表示は英語案内を外して日本語表記の案内板をつくり、トイレ及び非常

口の案内もわかりやすくしました。

(2) 利用者へ館内利用における注意喚起の表示が各館まちまちでわかりづらいため、1 枚のポスターに

まとめ全館統一したものを作成しました。

【ソフト】図書館職員間における多文化理解の考え方や対応等について理解を深める目的で、課内研修を実施しました。

④ 従前のビジネス支援コーナーを『市内事業者』『市内求職者』『市内で起業を希望する人』に対象を再設定し、分類・書架を再構成しました。また、対象者向けのビジネス誌を、雑誌架からコーナーへ移管しました。

図書資料以外にも、自治体や関係機関発行のチラシを、産業振興課の協力のもと収集、配架しました。

図書館ホームページリニューアルのタイミングで、全分類での所蔵資料リストを検索可能にし、外部の参考サイトを一覧できる『ビジネス情報』ページを作成、当該ページ QR コードを記載した配布用のしおりを作成しました。

⑤ (1) データベース講座の開催

演題：「図書館で見る聴く なつかしのオリンピック」

参加者：11 名 アンケート：満足度 36% (満足 4 不満 4 無記入 3)

15 分程度で申し込み不要の気軽に参加できるショートセミナーの開催 (全 4 回)

・演題：「夏休みの宿題に！データベース使い方講座」2 回

参加者：5 名 (使用端末 2 台)

・演題：データベースショートセミナー「国立国会図書館デジタルコレクション」2 回

参加者：8 名 (使用端末 2 台)

(2) データベースアクセス件数

・聞蔵Ⅱビジュアル：令和元年度 180 回 (平成 30 年度 64 回)

・ジャパンナレッジ：令和元年度 97 回 (平成 30 年度 9 回)

・国立国会図書館歴史的音源：令和元年度 100 回 (平成 30 年度 43 回)

・国立国会図書館デジタルコレクション：令和元年度 169 回 (平成 30 年度 790 回)

(※閲覧数)

⑥ レファレンス協同データベースへの登録数：259 件 (内 48 件を一般公開)

国立国会図書館長から御礼状が送付されました（年間データ登録件数が 200 件以上となった館を対象に贈られます）。

基本方針 2 の総合自己評価・今後の課題改善点

- ① 本調査を基に西東京市図書館でどのように多文化理解の発信や展開をしていけるかを検討していきます。また、多文化サービスに関連した活動をしている団体やサービスを行っている機関への調査は必要に応じて継続し、利用者ニーズに合わせたサービスを展開します。
- ② おはなし会だけでなく各種行事を企画し、多文化理解を深める取組の継続をしていきます。
日本語を学習している人を対象に、図書館に親しんで利用してもらうことを目的として、日本語のレベルに応じた図書館の蔵書を一緒に読み感想を共有しました。希望者には館内を案内しながら、図書館の利用方法を伝えました。
- ③ 今回確認した事項を踏まえ、利用しやすい環境づくりのハード面について、更に継続して検討します。
- ④ 図書館開館後の書架の動き等を確認し、都度改善を行っていく予定です。
- ⑤ データベース講座では、講座タイトルからオリンピックの動画を期待していた参加者や、データベースの使用法の比重が大きかったことに不満を感じていた参加者がいたため、満足度に関がありました。今後は、対象者と講座内容のすり合わせを慎重に行い、広報の方法を工夫します。講座後、実際にデータベースを利用するようになった方や、詳しい操作方法の質問があり、データベースの周知に一定の効果はあったと考えます。
ショートセミナーでは、夏休みの宿題に役立つデータベースの紹介を行い、高校生の参加がありました。今後も学生へのアプローチ方法を検討します。ショートセミナーに関しては、個々の目的に応じた使用方法の説明を目指しており、少人数での開催を今後も予定しています。
- ⑥ 研修等を経て職員内のレファレンス協同データベース活用は定着しつつあると考えます。今後は、一般公開する事例を増やしつつ、より活用されるような広報の方法を検討します。

A

図書館協議会委員による二次評価

- ① 多文化理解のためのサービスについてアンケートを実施し、要望を把握されたことを評価します。今後も要望の把握に努めるとともに、分析を踏まえた多文化理解の取り組みに期待します。
- ② 3 回予定されていた「多言語おはなし会」が新型コロナウイルス感染症のため 2 回しか行えなかったことは残念なことでした。今後の状況はわかりませんが、オンラインを活

A

用した企画なども検討する必要があると思います。

- ③ 利用しやすい環境づくりでは、ハード面とソフト面が車の両輪の役割を果たします。両方を意識して進めてもらいたいと思います。ハード面では、ポスターなどもなかなか目に入らないなど、館内表示は一層工夫の余地があると思います。サイン等の見直しもさらに積極的に進めていただきたいと思います。また、ソフト面では、職員間（専門員も含めて）の情報及び事例の共有方法が確立され、研修の素材（テーマ）として継続することを望みます。
- ④ ビジネス支援コーナーの充実、地域の経済活動を支援する上で大切です。今後も書架構成を再検討し、市民の要望にそった新しい形を追求してください。
- ⑤ データベース講座はよい企画だと思います。データベースについては、まだ利用者に十分認知・活用されていない現状を踏まえ、より市民が身近で気軽に参加できるようなセミナーを企画し、数多く開催するなどの取り組みを期待します。また、今回は、オリンピック関連のデータベース講座を実施されましたが、テーマ設定では、市民からリクエストを受け付けるなどの検討も行ってください。
- ⑥ 国立国会図書館レファレンス協同データベースへの登録は、図書館が自治体単位でサービスを行う形から、全国の図書館が協力し合うネットワークへと広がる活動だと思います。今後も登録を続けていくことを期待しています。

＜全体的に＞

図書館が行うイベントは、図書館が伝えたいことと市民の知りたいことがかみあうよう、タイトルから意識して企画する必要があると思います。

基本方針 3 西東京市の文化・歴史を次世代に継承する	
令和元年度目標	
① 西東京市に縁（ゆかり）のある人物情報・関連情報を図書館ホームページや講演会等で積極的に発信するとともに、収集を継続します。 ② 電子化した西東京市の地図や古文書、市史等歴史的資料の利活用を促進するため、Webでの公開に取り組みます。	
令和元年度取組成果	
①（１）講演会の実施 ・ 在住 中川越氏によるこどもイベント（児童サービス担当との共催） 「もらってうれしい手紙の書き方・もらった手紙を本にしちゃおう」 参加者：小中学生 7 人 ・ 在住 石井正己氏による講演会 「西東京市ゆかりの文化人 尾崎秀樹の業績」 参加者：43 人 （２）ホームページ「縁」コーナーの更新 講演会の実施や寄贈情報の追記を随時更新しました。	
② 電子化した個々の資料に加工技術を施し、最適な見せ方を選定し、高精細画像で「西東京市デジタルアーカイブ」として、以下の資料を「デジタルアーカイブシステム ADEAC」を活用して、図書館ホームページのリニューアルに合わせ 3 月 1 日から公開しました。 「西東京市デジタルアーカイブ」サイトの 3 月 1 ヶ月のアクセス数はトップページで 688 件、総数で 7,417 件	
【対象資料】	
1 「田無市史」通史編 1 冊・民俗編 1 冊 「保谷市史」通史編全 4 冊 2 「田無村御検地帳（西東京市指定文化財）」1 冊 3 「柳沢つげの手紙」47 通 4 「田無：地租改正絵図（西東京市指定文化財）」5 点 「保谷：大絵図」4 点 5 「公用分例略記（西東京市指定文化財）」17 冊 「田無村絵図」35 点	
} 西東京市図書館内における限定公開	

基本方針 3 の総合自己評価・今後の課題改善点	
①縁の人物情報の公開については、公開の可否について、個々に調査が必要なケースもあるため、慎重に進め確実なデータベース作りにつながるよう努めます。 ②公開直後の 3 月に講演会で公開資料の活用を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症のため中止になりました。令和 2 年度以降、あらためて地域の特性を踏まえたイベント等の企画や情報発信を行い、公開資料の活用促進と拡大に取り組みます。	A
図書館協議会委員による二次評価	
① 西東京市の文化・歴史を次世代に継承することは図書館の大切な役割です。西東京市に縁ある人物と連携協力した講演会の実施、人物情報の発信などの事業を着実にやっている点は高く評価します。今後もこれらの事業を推進していくために、必要な予算や、担える人材の育成と確保についても、継続して努力していただきたいと思います。 ② 「西東京市デジタルアーカイブ」の公表が達成できたことは評価できます。地域リソースの伝承や活用は、地域アイデンティティの形成という意味で、非常に意味のあることと考えます。しかしながら、いったんコンテンツをあげてしまうと、そのままになりがちです。多くの人に常に興味をもってもらう魅力的なコンテンツ維持のためにも、定期的な見直しや追加を図っていくことが望まれます。 新型コロナウイルス感染症の影響により、講演会が中止になったことは不可抗力ともいえますが、デジタル資料関連講座であり、オンライン開催など、別の方法を検討することはできなかったのでしょうか。また、地域ゆかりの紙芝居のデジタル化など西東京市の歴史文化を小学校の学習教材として活用できるよう計画の立案にも期待しています。 デジタルアーカイブの公開はアクセス数の数からも関心の高さが伺えます。今後も利用者に活用してもらえるような広報活動に力を入れていただきたいと思います。「3 月 1 ヶ月のアクセス数はトップページで 688 件、総数で 7,417 件」でしたが、今後、アクセス数などについても指標として捉えていくようにお願いします。	A

基本方針 4 未来を担う子どもの読書活動の支援

令和元年度目標

- ① 団体貸出用すいせん図書パック「いいね！！西東京市おすすめ（セレクト）本」の利用促進を図ります。
- ② 絵本と子育て事業を継続して実施し、子どもと保護者の読書活動を支援します。
- ③ 図書館利用のきっかけ作りにつなげるため、参加型行事の内容を検証します。
- ④ YA世代を対象とした読書会等、読書の楽しみを他者と共有できるイベントを開催します。

令和元年度取組成果

- ① 図書館資料の有効活用のため、図書館で小・中学生向けにそれぞれ作成した「夏休みすいせん図書」掲載の本をグレード別にまとめてセットにした「いいね！！西東京市図書館おすすめ（セレクト）本」の貸出しを平成29年度から開始し、平成30年度からはセット内容をグレード別に組み換え、また、児童館・学童クラブにも対象を拡大しました。

＜西東京市おすすめセレクト本団体貸出し推移＞

	29年度	30年度	令和元年度
小学校	3校（3パック）	6校（35パック）	6校（66パック）
学童クラブ	－	7か所（14パック）	2か所（6パック）
児童館	－	2か所（2パック）	0

- ② (1) 絵本と子育て事業

3・4ヶ月健診に参加した乳児とその保護者に対して、絵本のプレゼント（『ぼんちんぱん』または『くつついた』2冊の内1冊をその場で選んでもらう）や講師による読み聞かせ、図書館のご案内（乳幼児を対象としたおはなし会や0歳から利用登録できること等をPR）を行いました。

令和元年度実施回数 27回 ※新型コロナウイルス感染症による中止：1回

参加人数 1,378人・絵本配布率 99.6%

- (2) 絵本と子育て事業3歳児フォロー事業

3歳児健診に参加した幼児とその保護者に対し、特設会場にて講師によるスペシャルおはなし会やブックリスト「えほんだいすき」の配布、図書館の案内等を行いました。

令和元年度実施回数 26回（内講師あり 24回）※新型コロナウイルス感染症による中止：3回

参加人数 138人・参加率 11.3%

＜参考＞

30年度実施回数 30回（内講師あり 22回・参加率 11.5%）

29年度実施 20回（内講師あり 15回・参加率 10.9%）8月から開始。

③ 「夏休み自由研究おうえん企画～図書館からのミッションをクリアせよ！」8月中央図書館で実施。 対象：小学校4年生～6年生、参加者：小学生9名 図書館からクイズ形式で出題されたテーマについて資料を調べ回答するというミッションのクリアを通じて、図書館を使った調べ方のノウハウを伝え、普段は図書館を利用する機会の少ない子どもや保護者にも図書館の機能や便利さを伝えました。 「NDCは魔法の記号！」として、十進分類法についても説明の時間を設け、回答方法をビンゴカードにしてそろったらクリアなどの工夫をしました。「楽しかった」「本の探し方の工夫に気づいた」「十進分類法が考えて作られていることを知った」といった感想があり好評でした。 ④ YA世代（小学校6年生から18歳）を対象にイベントを企画しました。 YAワークショップ「プレゼントブック～だれかに本を贈るなら」 3月、ひばりが丘図書館、定員20名 用意した本の中から、参加者が「だれか」を想定して贈りたい3冊の本を選び、メッセージカードをつけ、それぞれの選んだ本を参加者同士で共有しました。

基本方針4の総合自己評価・今後の課題改善点	
① 小学校は全18校のうち一部の利用であること、児童・学童クラブへの利用はそれほど増えていないことから、継続したPRが必要と思われます。 ② 3歳児フォロー事業は、健診会場と事業実施会場が離れているという問題があり、参加率の伸びにつながりませんでした。一方で、図書館だより76号一面において、絵本と子育て事業のPRを行ったところ、市民から下記の意見が寄せられました。「健診では、3歳児の限界を遥かに超え長時間拘束され、親子共々(特に子どもが)疲労困憊した状態で、早く帰りたいと子どもが懇願する状況で読み聞かせのお誘いを受け、泣く泣く断って帰路に着きました。とても良い取り組みだと思うので、ぜひ参加したかったのですが、健診の後では無理でした。」 会場問題を改善するため、令和2年度からは健診会場と同じフロアにパーテーションで区切ったコーナーを設け実施予定です。 (※新型コロナウイルス感染症のため、4月以降も事業中止) 絵本と子育て事業、3歳児フォロー事業共に、新型コロナウイルスの影響により健診のあり方が変わっていく中で、どのように絵本と子育て事業を行っていくか情勢を把握しながら検討していく必要があります。 ④ 新型コロナウイルス感染症のためイベントは中止。令和2年度に改めて計画予定。 講師である学校司書と調整を行い、事前準備がいないイベント内容や、受験の時期が終わるタイミングに合わせた日程を設定しましたが、事前の申し込みは3名にとどまりました。改めて実施する際にはよりYA世代が興味を持つ内容への修正や、申し込み手段へのメール導入など、参加者がより気軽に申し込める形で行うことが課題です。	B

図書館協議会委員による二次評価	
① 団体貸出用すいせん図書パック「いいね！！西東京市おすすめ（セレクト）本」の利用は、平成 29 年度より増加していますが、まだ、利用増加の可能性があると思います。引き続き PR が必要であろうと思います。 ② 「絵本と子育て事業」は順調に実施できていると評価いたします。しかしながら、「絵本と子育て事業 3 歳児フォロー事業」では、健診会場と事業実施会場が離れていることによる参加人数の少なさなどの課題が指摘されています。「今後の課題改善点」では“会場問題を改善するため、令和 2 年度からは健診会場と同じフロアにパーテーションで区切ったコーナーを設け実施予定です”とのこと。大変良い事業ですので、どのようにすれば多くの親子が参加できるか、今後の情勢を見極めながら、当面、出来るところから課題解決をしてください。また、3 歳児フォローを実施している他市の自治体を調査するなど、いろいろな角度からの検討を期待します。 ③ 「夏休み自由研究おうえん企画～図書館からのミッションをクリアせよ！」は大変、興味深い企画だと思います。今後も図書館利用のきっかけ作りにつなげるため、参加型行事を企画・実施してください。 ④ YA ワークショップ「プレゼントブック～だれかに本を贈るなら」も興味深い企画でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止になったことは誠に残念なことでした。 なお、今後への希望ですが、YA 世代という時、小学校を卒業したばかりの 12 才は中・高校生向けイベントには参加しづらいと思います。「入学おめでとう」とか「卒業おめでとう」とか、時期的なアピールをしたり、その世代の子どもの興味に沿うイベントが企画されると良いと思います。 ＜全体的に＞ 令和元年度 2 月、3 月は新型コロナウイルス感染症の影響による図書館の休館、学校の休校があり、各種事業が実施できない状況だったと思います。担当者の方々の歯がゆい思いが伝わりました。また、事業によっては、ニーズ調査から再出発したほうが良いと思われるものもあり、今後を期待します。 図書館の乳幼児・児童、YA 世代へのサービスは、「子ども読書活動推進計画」と連動させながら、地域の子どもの読書環境に対する目配りが大切になります。子どもに手を差しのべる活動を地域・家庭文庫、子どもの文化にかかわる団体などと連携・協力して進めるように期待します。	B

基本方針 5 地域、行政と連携した図書館サービスの向上	
令和元年度目標	
① 武蔵野大学協力事業を推進します。 ② 西東京市の歴史的資料の公開に向けて、関連部署と連携します。 ③ 東京オリンピック・パラリンピック 2020 資料展示を実施します。 ④ 絵本と子育て事業について、読み聞かせ講師の協力による事業の充実を図ります。 ⑤ 新たな音訳者の養成と音訳者の技術向上のため、中級養成講座・専門研修を実施します。 ⑥ 宅配ボランティアへの研修を継続的に実施するとともに、サービス充実のため引き続きボランティアの募集を行います。	
令和元年度取組成果	
① 武蔵野大学図書館の市民利用のため、全館での武蔵野大学図書館利用証の貸出を行いました。 （全館で 187 回の貸出実績） ② 「デジタルアーカイブシステム ADEAC」を活用して Web に公開した資料に関して、主に社会教育課文 化財係に所有者との調整等を取りながら実施しました。 ③ 中央図書館と谷戸図書館で各々 1 か月間、オリンピック・パラリンピックの関連本およびオランダ王国の関連本を含め、一般書と児童書を展示しました。 中央図書館 115 回（展示数 75）・谷戸図書館 73 回（展示数 60）の貸出がありました。 また、応援メッセージも同時に募集し中央図書館 56 通、谷戸図書館 90 通の応募があり、スポーツ振興課の協力のもと、オランダに関するパネル展示や応援メッセージ参加者に対してオリンピックバッジの配布等を行いました。 ④ 基本方針 4-②を参照 ⑤ 中級養成講座・デイジー編集者養成講座（実際の広報の音訳・編集作業に参加する録音研修など）を実施し新たな音訳者を養成しました。 音訳実習（図表の処理について・音訳資料の読み方について・広報類等の文章の音訳の読み方について）を専門家による研修を実施し、音訳者の技術向上を図りました。 ⑥ ボランティア（協力員）の人数が不足していた、ひばりが丘・保谷にエリアを絞ってボランティアの募集を行い、新たに 4 名のボランティアが加入しました。	
基本方針 5 の総合自己評価・今後の課題改善点	
③ 利用者も参加できることで、コーナーの認知度が上がり、貸出数が伸びました。しかし、スペースの問題から、他課からの情報等をすべて掲示できず、資料も多ジャンルからの選書ができませんでした。 ⑤ 全体研修と対面朗読についての研修を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症に	A

より休館していたため中止となりました。また、専門研修については、研修内容や時期によって参加率にばらつきがみられることから、内容・時期等を検討したうえ積極的な参加の呼びかけが必要と考えています。 ⑥ より積極的に利用者へのPRとボランティアの募集を行い、サービスの拡大に努める予定ですが、一部のボランティアへの負担を避けるため、PR方法については検討していきます。	
図書館協議会委員による二次評価	
① ② 図書館が地域、大学、行政各部署との連携を進め、様々な取り組みを行ったことを評価します。 ② 行政との連携では、デジタルアーカイブのWeb公開資料に関して、社会教育課文化財係との調整・相談を行っていますが、今後はそれ以外にも、例えば健康医療情報サービスでは健康課、認知症関係では地域包括支援センター、ビジネス情報提供では産業振興課などとも連絡・協力関係をもつことが可能ではないでしょうか。集客力のある図書館が、市民と市の行政とのハブとなり、さらに図書館の存在感をアピールしていくことが必要だと考えます。 ③ オリンピック・パラリンピックの関連本およびオランダ王国の関連本の展示を行ったこと、スポーツ振興課の協力のもとオランダに関するパネル展示を実施したこと、応援メッセージ参加者に対してオリンピックバッジの配布を行ったことなどは、一つの協力のあり方を示していると思います。 ④ 「絵本と子育て事業」では、絵本をプレゼントするだけでなく、地域住民が講師となって絵本の読み聞かせをしました。このことは地域との連携・協力として評価します。 ⑤ 新型コロナウイルス感染症の影響で全体研修と対面朗読の研修が開催できなかったことは残念でした。 ⑥ また、今後、ソーシャルディスタンスが求められる中で、宅配サービスの役割が増していくことと思います。地域のボランティアと協力して、より活発になることを期待します。 ＜全体的に＞ 新型コロナウイルス感染症収束後の姿も見据え、多くの図書館サポーターが図書館活動に参加し、行政もサポーターを支える活動を進めていくという、よいサイクルが一層進められていくことを期待します。また、ボランティアの養成に加え、継続のモチベーションを上げる取り組みに期待します。	A

基本方針 6 効率的・効果的な運営体制の構築	
令和元年度目標	
① 行政職員として必要な知識を習得するため、窓口対応（接遇対応）などの研修を実施します。 ② 資質向上のための関係機関が開催する専門的な研修へ参加し、職員全体で情報を共有することで職員組織の強化を図ります。 ③ 図書館管理システムの更新とネットワークの再構築を行い、情報セキュリティ強化を実施します。 ④ 中央図書館・田無公民館耐震補強等改修基本設計を実施します。 ⑤ 図書館計画に基づく実施事業の自己評価を行い、図書館協議会による二次評価を実施します。	
令和元年度取組成果	
① 職員・専門員を対象とした全体研修、レファレンス研修、多文化サービス研修、文書事務研修等、課内研修を実施しました。職員を対象としたクレーム研修、ハラスメント研修、協働研修、財政白書研修、障害者差別解消法研修、情報セキュリティ研修等に参加しました。 ② 都立図書館や多摩地区図書館が開催する児童サービス、YA サービス、レファレンスサービス、地域・行政資料サービス、ハンディキャップサービスの担当者研修に参加し、研鑽を深め業務に生かしました。 ③ ネットワークの再構築と、図書館管理システムの更新を行いました。 また、ネットワーク更新では課題となっていた内部情報系と図書館管理システム（インターネット系）のネットワークを切り分け、セキュリティ強化を実施しました。 図書館管理システムの田無庁舎内教育情報サーバ室への移設を行い、安全性を向上させました。 図書館管理システムの更新により、館内 OPAC や図書館ホームページのリニューアルを実施し、地域行政資料のデジタルアーカイブの公開を開始しました。 ④ 設計業者、建築営繕課、図書館及び公民館と複数回打ち合わせを持ち、基本設計を作成しました。 ⑤ 平成 30 年度図書館事業評価について自己評価として一次評価を実施し、第 2 回臨時会において協議会による事業評価（二次評価）を決定し、その後教育委員会に報告しました。また、平成 26 年度からの 5 年間をまとめた事業評価については、平成 30 年度分を含めて同様に報告を行いました。	
基本方針 6 の総合自己評価・今後の課題改善点	
③ サーバの庁内への移設に伴い休館日の調整が必要になり、今後利用者への周知を徹底し、混乱を最小限に抑える必要があります。 ⑤ 自己評価の段階で担当による評価を組織立ててチェックする仕組みの構築と事業計画作成や取り組みに繋げる方法に課題があります。	A

図書館協議会委員による二次評価	
① ②市役所内の研修、都立図書館・関係団体の研修等に参加されていますが、今後は主題別の情報サービス（課題解決型サービス）に対応するために、「主題に関する専門性」を深めるための外部研修などへの参加も検討していただきたいと思います。 ③ 図書館管理システムの更新による情報セキュリティが強化されたことを評価します。情報管理の安全性が高まることは図書館全体への信頼につながると思います。 ④ 中央図書館・田無公民館耐震補強等改修基本設計が順調に進んだと理解していますが、2020年7月22日付けで西東京市図書館協議会から提出した「西東京市中央図書館耐震改修についての要望書」についても対応して頂きますようお願いします。 ⑤ 自己評価関連で課題となっていることが次年度は改善されることを期待します。 ＜全体的に＞ ソフト、ハード両面で図書館サービスの拡充に努めた取り組みを評価します。今後も住民が求めるサービスの充実のために行政機関としてしっかりとした事業計画や人材育成計画のもと取り組んでいただくことを期待します。 特に職員間の信頼関係（集団の中で自己実現できる環境のもと）が組織のよしあしを決めるのだと思います。市民にとっては、図書館が身近にあり、くらしに役立ち、自己発見と創造一心のやすらぎ、よろこび、元気に生きる力、他者との語らい（コミュニケーション）を求めるところと認識させるような組織（図書館）であって欲しいと願っています。そのための「運営体制の構築」に努めてください。	A